

あなたもチャレンジ 家庭菜園

春取り小カブの トンネル栽培

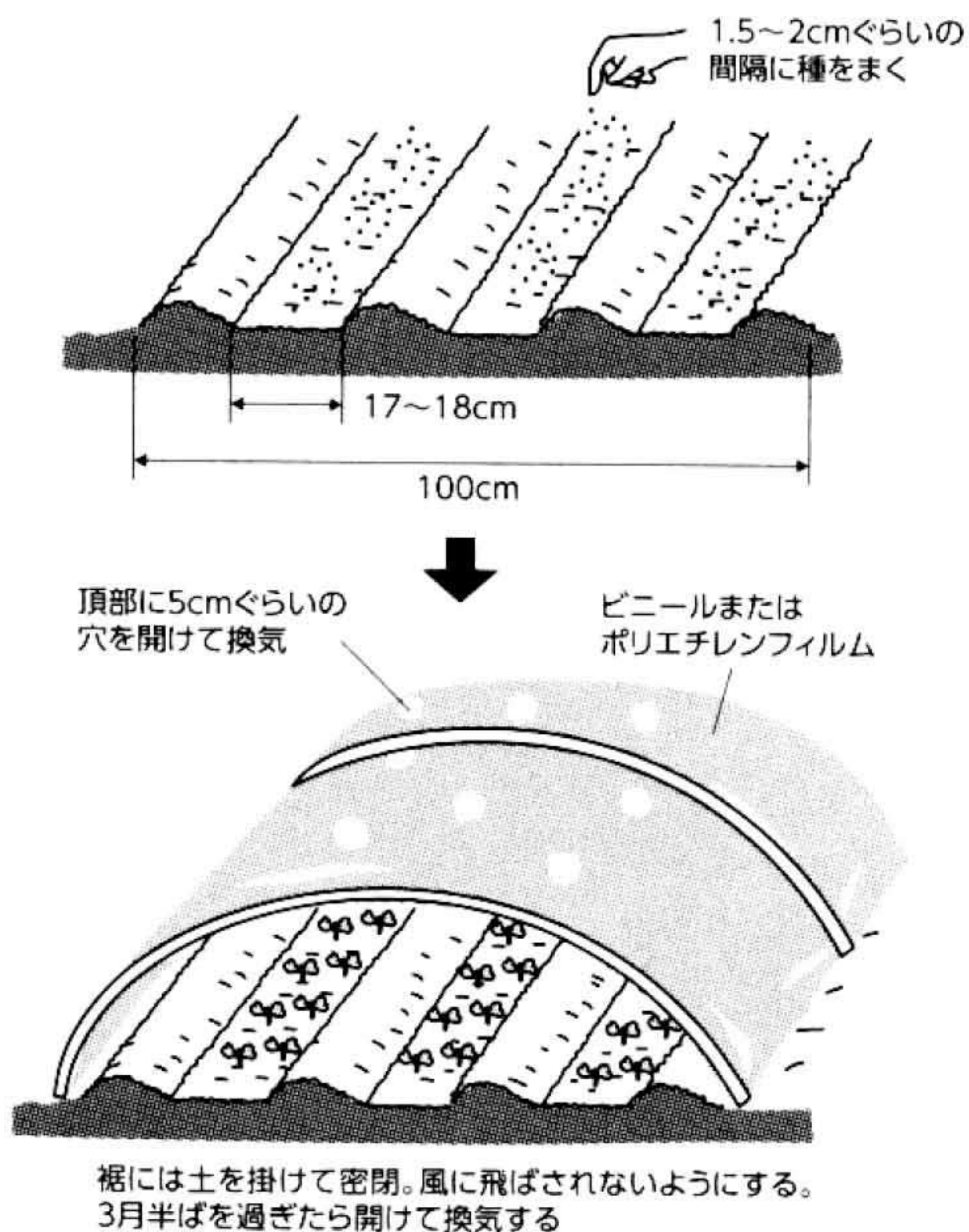
板木技術士事務所 板木 利隆

立春が過ぎ、日差しの強まりを感じ始める頃になると、今年の家家庭菜園の仕事始めです。一番先に種まきできるお薦めの野菜は小カブです。

トンネルで被覆し、保湿すれば4〜5月に白肌できめ細かく肌触りの良い、おいしい小カブが楽しめます。

種のまきどきは2月中旬です。寒い地域では気温差を考慮して種まきを遅らせましょう。

種のまき方は、畑に1m幅のベッドを作り、全面に完熟堆肥と菜種油かす、化成肥料を均一になるようにばらまき、15cmほどの深さによく耕し込みます。そし



てまき溝をくわ幅よりやや広め（17〜18cmぐらい）に3列、溝底が平になるよう丁寧に作り、溝の外にはみ出さないよう注意しながら、ジョウロでたっぷり灌水（かんすい）しておきます。

発芽そろいまでトンネルは除覆しないで、このことを考えて十分に灌水してください。

種まきはまき溝の中に種間隔が1.5〜2cm離して満遍なくまき、その上に1cmぐらいの厚さに覆土します。トンネルの裾には土を掛けて密閉して発芽を促します。種まきしたらすぐ密閉してしまうので、発芽と初期生育に必要な量を十分灌水しましょう。

発芽して本葉2〜3枚に育ったら、トンネルの頂部に小穴を開けて換気し、さらに内部が日中30度を超すようになればトンネルの裾も開けて気温の上昇を防ぎます。

育つにつれて株間が込み合わないよう間引きをし、灌水を適宜に行って乾き過ぎないように注意してください。また、生育中は、葉の緑が淡くなりかけた頃に、溝の外側に化成肥料をばらまいて追肥します。

球系が5cm内外に育ったら収穫開始です。途中で間引いた物も上手に利用しましょう。春の小カブは葉も柔らかいですので、汁の実や漬物にしてもおいしくいただけます。

トンネル換気、除覆すると、コナガ、アブラムシ、ヨトウムシの幼虫などが害するので、発生状態に注意し、初期に適応殺虫剤を散布して防ぎましょう。小カブはその後も次々に種をまいて栽培できます。

表紙紹介

『書』澤田鈴子さん（玉鉾）

40歳の頃から教室「鈴の会」を始め、気の置けない生徒さんたちと週1回のペースで『書』を楽しんでいます。

※「祥雲（しょううん）」めでたい雲、めでたいことの起こる前ぶれの雲

